

5月分科会報告

5月19日(水)「創作料理とワインのお店 clef(高津区久本)」にて午後6時30分より開催、参加者10名を得て、現在、スペインに本社のあるフェリックス・ソリス株式会社の日本事務所 代表 松田宝雄氏をお迎えて、「スペインワインの夕べ」と題して、スペインワインを味わいながらの講演会が開催された。講師は、大手建設会社の海外部門で活躍され、特にアラビア世界の勤務が長かったため、「コーランの世

界」の造詣も深く、以前には、川異研の会合で講演をされているが、今回は、ワインに魅了されたため、退職後に一念発起して、ワインアドバイザーの資格取得にチャレンジして見事合格され、特に思い入れのあるスペインワインの楽しみ方を系統立てて解説していただいた。参加者からは、ワインを見直したとの感想を披露する方もおられ、和やかな雰囲気の中、盛会の内に終了した。

6月分科会報告

6月3日(水)高津市民館会議室にて、午後6時30分より開催、参加者15名を得た。今回は、本年度の川異研の事業方針である「企業間連携・産学連携事業の推進」に則り、会員企業である(有)ネオスペースフロンティア システム企画部 掛田敏幸氏を講師に「社業発表」がなされた。同社は『SAKE』(Simple Authoring Knowledge Education Tool:社内e-ラーニングコンテンツ制作ツール)や『TRUE』(Total Real time detection Ultimate Engine:自社開発の簡易型データベース)といったオリジナルのシステム製品を持っているとともに、今後は企業のイメージや製品紹介等をフラッシュムービーの活用によるポータルサイトである『いんぐねっと』の運営に力を入れるなど、独自の視点で発想する元気なIT企業である。今回は経営者以外の方が発表を行うということもあり、産学連携先である和光大学の学生さんも多数参加い

ただき、質疑応答も非常に活発に行われた。その後、場所を変えて和やかな雰囲気のまま、懇親会を開催した。



6月定例会報告

6月10日(木)ミューザ川崎会議室にて、午後6時20分より、参加者22名(和光大学生含む)を得て、“子どもたちの大切な夢を一つひとつ叶えていきたい”と題して、一般財団法人メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンで活躍されている池内久徳氏をお招きして開催された。講演の中で、池内氏は「『メイク・ア・ウィッシュ』は、英語で『願い事をする』の意で、『難病の子供の夢をかなえる』ことを目的とした国際ボランティア団体で、多くの企業や団体の支援を得て、難病と闘う子供たちの様々

な夢を実現させてきた実績がある。私は、慶應大学を卒業し、大手旅行会社に勤めた後、メイク・ア・ウィッシュ活動に共感し、実質的に経済的・人的なサポートを全面的に提供しているブルデンシャル生命保険株式会社に転職した。私は、これまで、数多くのボランティア活動に関わってきたが、その原点は、ちょうど入社1年目から始まったボランティアマラソン大会で難病を克服して5kmを完走した子供の姿を目の当たりにし、言葉にならない感動を覚えたことにある」等の体験を話さ



れた。参加者からは、貴重な取り組みをされている講師への称賛の声が相次いだ。その後、懇親会場に席を移し、講師も参加されている和やかな交流が続く中、盛会の内に終了した。

7月分科会報告

7月7日(水)午後3時より、参加者9名を得て、有限会社最光(川崎区塩浜)にて会社見学会が開催された。

今回は、本年度の川異研・事業方針である「企業間連携・産学連携事業の推進」に則り、会員企業である同社を訪問し、代表取締役 最首日出夫氏から、施設見学のご案内とともに社業についての説明をいただいた。同社は、設備・機械等の修理補修、プレス加工等で発生する打抜屑、建物等の解体修理等で発生した銅及び銅合金スクラップを現金で買入れ、選別・加工後にメーカーへ納入するリサイクル企業で、リーマンショックによる銅価格が6割減という大暴落を経験されたが、ようやくリーマンショック前の8割の水準まで回復した。国内では銅及び銅合金は品薄状態であり、ものづくりの前段階として原料供給、さらにリサイクルを行っている。参加者からは「同社のような存在が日本経済を下支えて

いる実感を新たにしたい」等の感想が聞かれた。その後、場所を変えて和やかな雰囲気のまま、懇親会を開催した。



加入のお問い合わせは

事務局:多摩麻生支所 TEL 044-932-1100